

総評

英語はやや難しかったようですが、どの教科もおおむね標準的な難易度の出題でした。

入試や道コンのような総合問題は、学校の定期テストにくらべて出題範囲が広いので、難しく感じる人が多いかもしれませんが、問われているのは基本的な内容が中心です。攻略するには、基礎・基本の定着と、場面に応じて知識や技術を活用する訓練とが欠かせません。これからは、実践的な問題にも少しずつ取り組んで、活用する力をつけていきましょう。

入試問題の半分以上は、1・2年の学習内容で解くことのできる問題ですから、この範囲を復習し、定着させておくことはたいへん重要です。スムーズに受験勉強を始めるために、1・2年内容を完璧にしておきましょう。

国語

標準的な出題でした。

㊦は「掌握」、「赴く」の読みが特に難しかったようです。(8)「捨」は「捨」と書き間違えないように注意しましょう。㊦は問二の「時の人」の意味が難しかったようです。22年の入試でも小説から語句の意味を問う問題が出題されました。わからない言葉は辞書で確認する習慣を身に付けるとともに、文脈から意味を推測する力を身に付けることも大切です。㊦は全体的に難しかったようです。特に問二②の得点率が低くなりました。問四は合うものを「全て」選ぶ問題であったためか、得点率が低くなりました。文章の内容をしっかりと読み取れているかどうかのポイントとなります。㊦は問一のかなづかいの問い以外は、得点率が低くなりました。口語訳と照らし合わせて、もう一度読んでみましょう。

数学

標準的な難易度の出題でした。

①と②は、いずれも必ず解けるようにしたい基本問題ばかりです。とりこぼしのないようにしっかり復習しましょう。今回の配点は②までで54点ですから、ここまで得点するだけで平均点程度の得点が確保できます。

④は、近年入試でも出題の頻度が高い問題です。形式やグラフに徐々に慣れましょう。まずはたくまさんのグラフのおおその形をかき入れ、式を求めてみましょう。通る1点の座標(=時刻と家からの道のりの組み合わせ)と傾き(=速さ)がわかれば、式が求められます。

⑤の問1の証明は方針の立て方が難しかったかもしれません。2辺が直接等しいと言えないので、別の辺を仲立ちとしてそれぞれが等しいことを説明します。解説を見ながら自分でも一度書いてみましょう。

社会

標準的な出題でした。

地理分野では、①問6の「ヒスパニック」に関する問題で得点率が低くなりました。「ヒスパニック」という語句を知っていても、説明するのは難しかったと思います。正確に表現できるようにしましょう。

歴史分野では、③問2の「唐」、「大宝律令」に関する問題で得点率が低くなりました。中国の王朝などは、あいまいに覚えている人も多いと思いますので、ノートにまとめてみるなど知識の整理をしましょう。

社会の公立高校入試は出題傾向が変わり、以前の入試よりも思考力・判断力・表現力などが求められるようになりました。語句の暗記はとても大切なことですが、日頃から語句以外の資料やグラフ、写真などにも着目して学習するようにしましょう。

理科

標準～やや難しい難易度の出題でした。

①はどれも基本的な内容です。間違えたところや悩んだところがあれば、しっかりと復習しておきましょう。②は、問2と問3の得点率が低めになりました。実験の設定をしっかりと読み取る必要があり難しかったようです。③の問1は基本的な問題でしたが、不正解の人は少なくありませんでした。双子葉類と単子葉類の特徴をもう一度確認してください。④と⑤は、どちらも全体に得点率が低めになりました。実験や調査の結果を読み取って、思考・計算することが求められ、難度の高い出題もありました。入試に向けて、このような暗記では対応できない、実践的な問題に取り掛かる機会を増やしていきましょう。⑦は、問2が難しかったようです。順を追って考えていけば計算自体は平易でした。

英語

全体としては難しめの出題となりました。得点率が10%以下になった問いも見られ、入試形式の問題を解くことに慣れていない人も多かったように思います。今後は入試に向けて、文法の基礎固めに早めに取り組むとともに、入試に似た形式の問題演習を意識的に行っていきましょう。リスニングも重要ですので、取りこぼしのないようにしっかり対策をしていきましょう。

④問5は得点率が最も低くなりました。このような形式は入試でも頻出です。当てはまる内容・文法を正確に判断するには、類似問題で練習することが必要です。

⑤問2の自由英作文も得点率が非常に低くなりました。書くべき内容がわからなかった人もいたかもしれません。前後の文脈から判断して内容を決め、できるだけ単純な英文を用い誤りをなくすことを心がけましょう。